

# 平成 28 年度 学校評価書

常葉大学短期大学部附属こは幼稚園

園長 堀 則雄

## 1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 . . . . . 心豊かでたくましい子

重点目標 . . . . . 自ら遊びを楽しむ

学年	評価項目 (各学年の指導・取組の重点等)	自己評価		学校関係者評価委員会の評価	
満 三 歳 児	<p>○安心して園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師や友達とかかわりながら好きな遊びを楽しむ。</li> <li>・ 言葉で表現する楽しさを知る。</li> <li>・ 簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活面では個人差はあるものの、身についたことが多く、自立面での成長を感じる。</li> <li>・ 一人一人好きな遊びを見つげられるようになった。また、生活や絵本を通し様々な言葉を知り、友達とともに遊びに取り入れ楽しんでる。</li> <li>・ 保護者にも安心していただけるよう、「こっそり参観」を実施。小さな気づきを共有しながら子どもの成長をともに感じられる機会を意識的につくった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の姿を見たい保護者は大勢いると思いますので、「こっそり参観」はいいと思います。</li> <li>・ 保護者に安心が子どもの安心につながっていて、その通りだと思う。保護者としてありがたいこと。</li> <li>・ 園児一人一人のポートフォリオを作っているということも、丁寧な対応。引き継げることは次年度に引き継いで欲しい。</li> </ul>	A
年 少 児	<p>○友達や教師と楽しく園生活を送る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心感を持って生活し、教師や友達と触れ合う。</li> <li>・ 自分の好きな遊びを見つけて楽しく遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達とかかわりの中での学びの機会をたくさん作っていきたいと考え、子どもの実態に沿ったあそびや環境を整えていった。そうすることで、子ども自身が意欲をもって生活やあそびを楽しみ、子ども同士誘い合って遊ぶなどの姿が見られ、遊びの充実につながっていった。</li> <li>・ 園が安心できる場となり、その子なりに楽しく園生活を送り自信につながっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちからリレーをしようと思うなど、子ども同士のかかわりを通じて育っている部分がよくわかる。</li> <li>・ 子どもの成長段階を見守り、遊びをサポートしてくれている様子が伝わってくる。</li> </ul>	A

年中児	<p>○友達と夢中になって遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒にのびのびと活動する楽しさを味わう。</li> <li>・身近な自然や生活の中で、考えたり発見したりして様々な体験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達の話を聞き、自分なりに考えたり、意見を言ったりするようになった。子ども同士で思いを表現し、共感することができるようになってきている。</li> <li>・縄跳びカードを通じ、挑戦する気持ちが育ってきている。</li> <li>・制作活動でもそうだが、自分なりの工夫が見られた。自分たちで考えて進められるようになってきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性を大切にしている。また、お互いを思いやる気持ちが育っていて、年長への成長が楽しみである。</li> <li>・友達同士で意見を出し合えることが素敵だと思う。自分たちの生活の場となっている。</li> <li>・縄跳びカードはゲーム感覚で楽しく取り組めるので、自主性育つ意味でも効果的だと思う。</li> <li>・子ども同士で思いを表現したり共感したりすることができるようになったということが、卒園式での素敵な歌声に繋がったのではないかな。</li> </ul>	A
年長児	<p>○遊びを通して協同性を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と話し合ったり、協力したり、工夫したりして自分達で主体的に遊びや生活を進める。</li> <li>・話を聞き、場にふさわしい態度をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の予定をカレンダーに書き込んだことで、自分たちで見通しをもって活動に取り組む姿が見られるようになった、時間も気に掛けるようになり、互いに気づき、育ち合っていた。朝、帰りのひとときなどで、子どもたち自身で声を掛け合い、人の話を聞く態度も育ってきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを超えて、学年単位で活動していることは良いこと。</li> <li>・年中の頃よりも時間の感覚やけじめがついているように感じる。</li> <li>・卒園式の姿を見て、成長していることが伝わってきた。</li> </ul>	A

## 2 各指導部等にかかわること

評価項目（各指導部等のねらい・取組等）	自己評価	学校関係者評価委員会の評価
<p>1 安全・保健管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急時の避難訓練を定期的実施し、子どもの安全確保に努める。</li> <li>○家庭との保健に関する情報交換を綿密にし、疾病予防に努める。</li> <li>○食物アレルギー等、子ども一人一人に配慮した保健指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施の避難訓練では、職員の行動を含めた振り返りを行えたことが、訓練として適切であった。あらゆる場所の確認など、具体的対策を更に考えていきたい。</li> <li>・流行の疾患については、詳細をこまめにメール配信し、保護者の予防意識を高めるきっかけとなった。キエルキンの導入をした。（1月～）</li> <li>・食物アレルギーは大きく掲示し、全職員で確認できるよう工夫に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流行性の疾患について、いち早くメール等で保護者に伝えてもらえるのはありがたい。保護者側も予防意識が高まる。結果的に、それほど蔓延せずに済んだように思う。</li> </ul>

2 運 営 組 織	○報・連・相を適宜行い、円滑な組織運営に努める。 ○教職員相互の信頼関係を大切にする。	・報・連・相を強く意識していたこともあり、組織として円滑であった。自身が担当でなくても、お互い声を掛けながらチームとしての運営ができています。	A	・教員のチームワークの良さは、いろいろな場面で伝わってきた。 ・教員間のコミュニケーションは今後も密にして欲しい。	A
3 研 修	○合同研修や園内研修を通して、異年齢の関わりから育ちを見つけ、課題に取り組む。 ○スキルアップとなる外部研修にも参加し、保育の質の向上に繋げる。	・異年齢で関わることの良さや、子どもの成長が3学期特に見られた。来年度は自然発生的なかかわりも継続して追っていくが、意図的な縦割りチームを4月に作り、より深い異年齢のかかわりを追及していきたい。その際、発達段階を追って、自然なかかわりが見られるよう、環境も整えたい。 ・夏に実施の幼児教育実践学会でのポスター発表や、その他外部研修参加を含め、保育に活かせるよう努めてきた。	A	・異年齢のかかわりは楽しく、刺激を受ける。今後も大切にしてほしい。	A
4 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	○各家庭に保育の取り組みをわかりやすく伝え、理解に繋げ、信頼関係を築く。 ○園開放、未就園児の会を通し、子育て支援に力を入れていく。	・各学年ごと、こまめに保育の様子をブログでアップし、保護者にわかりやすいよう、伝えられた。 ・未就園児の会は、より親近感が持てるよう、在園児と触れ合う機会を多く取り入れ、楽しんでもらった。いちごクラブの園庭開放も取り入れたら、より幼稚園への親近感が持てるのではないかと。	B	・ホームページ、メール配信が活かしていることが良い。 ・地域との関わりが更に深まるといい。 ・保護者がもっと園に親しみを持って、PTA役員をされる方がスムーズに決まるといい。 ・ホームページの写真を見るのが楽しみである。 ・いちごクラブの園庭開放も是非実践してほしい。 ・ウエル城北との交流も今後も続けて欲しい。	A
5 学 園 内 連 携	○たちばな幼稚園・橘小学校との研修や交流。 ○中学・高校・短期大学部・大学の実習生受け入れやパイプ強化。(研究保育を通しての研修)	・年中・年長児がたちばな幼稚園と交流、年中児は橘小学校とも交流を行う。 ・6月の幼小研修会、7月の短大夏期ゼミで学びを深める。 ・短大50周年記念式典参加。また、こども園プロジェクトチームに入っただき、附属として連携を強めた。	A	・実習生とのふれあいが持てるのが附属園の良さ、強みだと思う。いろいろな人とかかわって成長して欲しい。 ・たちばな幼稚園の園児との交流が、ここは子どもにとっても良い刺激となっている。	A

A 達成されている

B まあまあ達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である